

辻翔吾さん

JICA 海外協力隊 2019 年度 1 次隊

派遣国：ホンジュラス 職種：体育

2021 年 7 月 11 日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

体育の授業 生徒主体に

ホンジュラスから一時帰国という形で日本に戻り、1 年以上たつ。現在は東広島市で、発達障がいや不登校の子どもと関わる仕事をしている。誰かの役に立ちたいという気持ちは今でも変わらない。

2019 年 7 月、ホンジュラスに国際協力機構 (JICA) 海外協力隊の体育隊員として赴任した。活動内容は、現地の教員に対して



体育の授業を受ける子どもたち

体育の指導法を教えるというもの。だが、暑さや運動ができないからと体育を敬遠する教師が多く、教科としての役割を満たしていない体育の指導法を教えるのは容易ではなかった。

一方、生徒は毎日、目を輝かせて外で遊んでいる。その様子を見ると、あくまで教師に体育を教え、持続的な支援をするとかたくなな姿勢を取っていた自分が恥ずかしくなった。「目の前にいるこの子たちに体を動かす楽しさをもっと知ってほしい」と思い、実際に自分が体育の授業をするようになると、新しい運動をする生徒たちはいつも以上に輝いていた。

そんな活動を続けるうちに、話しかけてくれる教師や体育に興味を持ち始める教師が増えていった。生徒たちの笑顔が大人の心に変化を起こしていたのだ。やっとスタートラインに立てたように感じた。

帰国後、今の仕事をする中で、こんなに豊かな日本にも困っている人は多くいることに気づいた。協力隊の活動を通して学んだ、持続的な支援のためには「まず目の前の人を今、笑顔にする」。この気持ちを忘れずに、関わっている子どもに寄り添っていきたい。